

## (第2分科会)

### NPO との連携による英語活動 －現在の取り組みの様子と、今後に向けて－

NPO 法人

イングリッシュサイズ代表 福田聖子  
岡山市立高田小学校 教諭 森永真穂

高田小学校では、9年前よりNPO法人イングリッシュサイズと連携しながら英語活動を研究、推進している。今日は、NPOと協働で10年目を迎えようとしている本校の英語活動「ハロータイム」について、これまでの取り組みや現在の活動等実践の様子について発表したい。



#### 1 本校の概要

本校は全校児童66名 単学級6クラスの小規模校である。岡山市北西部に位置し、のどかな農村地域であり、3世代同居の家庭が多く、学校教育に協力的である。また、隣接する幼稚園との交流もさかんである。

#### 2 英語活動の概要

本校では、英語活動の時間をハロータイムと名付け、低学年、中学年、高学年にわかれ、2学年合同で取り組んでいる。オープンマインドによる自己表現力の育成を目的に、このハロータイムに取り組むことになった背景には、次のことが挙げられる。

第1に、「フィリピン・メグミ校との姉妹校縁組」だ。1996年、今から11年前に、フィリピンのネグロス島パコロド市にあるメグミ校と姉妹校締結をしたことは、大きなきっかけのひとつとなっている。

第2に、「自己表現力を育む環境作りの必要性」が挙げられる。本校児童は、運動好きで活発、素朴でおとなしく、何事にも一生懸命取り組む素晴らしい面を持っている。しかし、改まった場面で発表したり、自分の思いを表現したりすることには消極的な傾向が見られる。そこで、本校の教育目標を実現し、児童一人一人が生き生きと学校生活をおくるためには、自己表現力を育てることが大切であると考えた。

第3に、「児童の英語に対する興味と関心」が増してきていることや、社会情勢の変化による「国際理解の重要性」も挙げられる。時代背景、また、21世紀を生き抜く子供たちの未来を考えたとき、当然、求められることであると考えた。

#### 3 NPO 法人との連携について

9年前の英語活動開始に伴い、当時岡山市公民館のイングリッシュサイズクラブで活躍されていた現在のNPO法人イングリッシュサイズ代表福田講師に相談することになった。福田先生のアドバイスにより、イングリッシュサイズの児童英語のコンセプトを基に、ハロータイムの考え方やカリキュラム作り、教材作りなど、高田小学校オリジナルの英語活動を構成していった。

#### 4 ハロータイムについて

平成11年度にハロータイムがスタートした。ハロータイムでは低学年で年間20時間、中・高学年で25時間の授業の他に次のような活動をし、実践する場を設けている。

まず、メグミ校との交流では、ビデオレターの送付、クリスマスカードの交換、交流訪問(2000年交互来校、2001年来校)、などを行っている。また、もちつきなどの国際交流イベントに積極的に参加している。

また、英語劇にも取り組んでいる。平成14年度には、昔話「ももたろう」をモチーフにした「スーパー桃太郎」に取り組み、校内の学習発表会で披露した。さらに、英語教育実践ネットワークPEER NETWORKの設立記念イベントへの出演依頼を受け、県生涯教育センターでの第2回公演を行った。今年度は、昔話「わらしべ長者」をモチーフにした英語劇「わらしべチャージャーズ」に取り組み、校内学習発表会で発表した。どちらも福田先生が高田小の児童のために、オリジナルのシナリオを作成し、また、積極的に指導してくださった。その結果、英語活動を楽しむ児童、英語が好きになる児童が増えた。

また、高田小学校のある足守地区で毎年秋に催されるメロン祭りでは、英語の歌や踊りをステージで披露している。子供たちも表現力の向上に伴い、年々表現する楽しさを味わうことが出来ているように感じる。他にも、卒業生のボランティア活動への参加等々、小学校での活動だけにとどまらず、多岐にわたる、また継続的な活動が行われている。

- ・英語劇「スーパー桃太郎」平成14年度  
(学習発表会 PEER NETWORK設立記念イベント)
- ・英語劇「わらしべチャージャーズ」H19年度(学習発表会)



- ・卒業生(中学生、高校生)のボランティア活動参加



岡山県青少年課 ほっとハート イングリッシュサイズイベント

## 5 ハロータイムの目的

第1の目的として、「ハロータイムの英語活動の時間をとおり、オープンマインドによる自己表現力を育成する。」を設定し、活動を進めている。低学年では、年間20時間、中、高学年で25時間計画している。それをさらに、基本的に1トピックスを2時間扱いでカリキュラムを組んでいる。その2時間の第1時をJTLの先生と基礎学習をする時間と位置づけ、第2時にはHTで応用学習、つまり前時習ったトピックを使ってのゲームや発表の場になるように組み立てている。そうすることにより、HTでは、不安な面のある発音などを確認しながら学習を進めることができる。

## 6 指導体制

JTLである福田先生が各学年に年10時間ずつ指導するとともに、ALTが年5~6時間指導を行うという恵まれた状況であり、中・高学年でも25時間中、過半数がTTでの授業となっている。また、職員での研修を深めたり、毎年夏休みには福田先生に講師をしていただいていたの講習会も積み重ねたりしている。

## 7 指導上の工夫

五感をはたらかせて、英語にふれる活動を推進するために次のような工夫もしている。まず、あいさつやアルファベットなどを、ろうかや教室等目に触れる場所に掲示している。それから、図書館には、絵本を中心にした英語の本を入れてもらい、まず絵や写真で外国の文化や生活にふれることができるようにしている。それから、夏休みには英会話教室

を実施し、ゲーム等体を動かしながら英語にふれる場を設けている。この教室も福田先生が快く引き受けてくださり、講師をしてくださっている。また、毎日、朝、帰りの校内放送では、英語の挨拶も取り入れた内容を流し、継続的に、また自然に耳にできるようにしている。給食時間の校内放送では、週に2回NHKで放映中のエイゴリアンのビデオ放送をしており、子どもたちはいつも楽しみにしている。

また、本校では、毎月、今月の歌を決めて、それぞれ朝の会で歌い、さらに月2回の音楽朝会では全校で声を合わせて歌うという取り組みをしている。その中で、毎年12月には英語のクリスマスソングに挑戦している。子どもたちは、耳にしたまま口ずさむので、意味はよく分からないながらも英語の歌を歌うという経験に満足しているようだ。そのため、発音もすばらしいものになっている。

## 8 基本的な考え方

実際のハロータイムの内容について説明する前に、ハロータイムのコンセプト（基本的な考え方）について3点ご説明したい。

まず第一に、人、文化、実際の生活の様子について児童は「もっと知りたい・知らせたい」という思いや願いを持っている。それらを受け止めながら、英語活動を通して、表現する楽しさや伝え合う喜びを実感できる経験を積み重ねることにより、自己表現力を育成することができる。

第2に、このような願いを受け止め、さらにコミュニケーション能力につなげていくために、スパイラル的に身につけていくようなカリキュラムを設定していく。

第3に、国際社会で通用するコミュニケーション能力を身につけるよう、英語をコミュニケーションの道具として使う授業を行っていく。

## 9 ハロータイムの実践内容

### <初年度から3年目までの活動>

開始当初は、まず英語コミュニケーションを楽しめる環境作りを目指した。授業では、オープンマインド作りにも効果的なクラスパワーを使って始めるようにした。日本語と英語の言葉の音やアクセントの違いなど、英語のフレーズのシンコペーションするようなリズムや、音楽のメロディーのようなイントネーションなどの英語の素地を文化として、心と身体で吸収できるように楽しい展開にした。イングリッシュボックスを効果的に活用してそれらの英語の素地をを自然に吸収できる授業展開を確立した。学校全体の雰囲気作りや、授業の流れのベースを作ることでできた時期となった。

その当時からのレッスンの流れを説明する。あいさつから始まり、あいさつで終わる。始めのあいさつ Hello Song でみんなが輪になりクラスパワーでオープンマインドを作り、次にペア活動でアイコンタクトを取りながら「元気ですか？」の気持ちを込めて Hi! How are you? のイングリッシュボックスをする。ウォーミングアップで、リズムやアクセントイントネーションを自然に表現する。そして、そこで必ず英語の音を視覚と聴覚で吸収した後に、英語の出せる口をつくるオーラルイングリッシュボックスを実施し、活動に入る心とからだの準備ができる。ここから、今日のトピックにはいり、そのトピックを使うことのできるアクティビティをなるべく体験的な活動として実施する。また、次への活動へつなげていくために楽しくクールダウンのイングリッシュボックスでしめくくり、終わりのあいさつをする。

今でも、この流れで同じ曲を使っているが「英語」と言う言語の持つ特徴は変わらず、いつまでも役に立つ内容でありこの時期に大変大切なことなので日本人の英語習得にはずっと外せない内容です。

### <4年目頃からの活動>

活動を始めてこの時期にさしかかる児童たちは吸収した言葉やスキットを自分の英語のフォルダーに入れて、それを自分の考えを基に表現につなげていく時期です。学校全体では、このあたりから、簡単な内容であれば低学年でも2つのトピックの組み合わせが楽にできるようになりました。(無理にこれは実施する必要はありません)また、この頃に

はよく児童の口から、自然に英語の言葉が飛び出すようになり驚かされるようになった。アクティビティなどを実施している時に、ちゃんと英語で考えて英語で表現していることから、このころから英語の思考回路(Thinking Mechanism)が繋がってきている事を感じた。このころから、トピックを取り入れるさいに、まず、T.Tでのやり取りを聞いてもらうようにした。英語で話をしている内容を「なにを言っているんだろう？」とまず興味をもって聞いてくれる。それから、トピックの説明にはいり自分たちも試してみる、という流れだ。それは、まるで英語圏にでも行って、街角で聞こえてくる話に興味を持ち「わかろう」という気持ちがあふれ「つかってみよう」という状況だ。そのような流れにすることでコミュニケーション力、表現力をしっかりと育むようにした。

この時期からは、これまでの活動に合わせて場面に合わせてのパターンスキットによる実践を充実するようにした。場面に直面したときに体験した事を基に英語コミュニケーション力につなげるものだ。また、先生の個性を生かした活動にするように担任の得意とするところを生かした内容の授業を取り入れた。また、他科目へリンクさせた内容を取り入れている。

今年度より、コンテンツバンクにスキットバンクを入れ込んだ。授業の進行によって入れ換えができ、次年度への繋ぎとしても活用できる。これからも、生徒たちの育成度がアップすることにより、内容や場面を充実させていきたいと思っている。

これまでも、職員研修やイーラーニングによるウェブセミナーなどでも指導力のスキルアップを図ってきた。そうする中、授業案やアクティビティ企画とかはだんだんとなれ、自然な流れの授業案ができるようになって来ている。これからも、基本のコンセプトはしっかりとおさえて活動を続けていく必要があると考える。

そして、そのほかに指導に関して大変重要なのは、英語力もあるが、あわせて重要なのは教材やCD、ITを活用する『指導方法力』のアップだ。Thinking Mechanismを生かせるアクティビティの実施や、教具の充実と共に、それを使いこなせる指導力のアップも目指していきたいと考える。そして、これまではイベント等に参加した子ども達は実施できていた、中学生や高校生、大学生や大人の人達との英語コミュニケーションでの交流を、NPOのサポートにより、もっと学校で連携を図って実施する事ができる機会を設けることができたかと思っている。

また、英語科、エマージョン授業とは違った形態のハロータイム。担任実施の授業の内容充実を図り、楽しく内容のある授業の実施を続けていきたいと思っている。

## 10 これからの英語活動に願う事

今日ご参加の皆様の中で英語でのコミュニケーションが大好きであるという方はいらっしゃいますか？また、英語がどうも苦手である方はいらっしゃいますか？

以前は、中学校に入った当初、英語が楽しいと思う生徒達も2年生後半頃からニガテになっていくケースが多くありました。これから小学校ではどんな形であれ、たくさんの可能性のある内容の英語を取り入れていくことになるでしょう。たのしさ、可能性は無限大です。そして、その楽しさ、可能性をもち中学生に。中学校でもそれを引き継いでしっかりと使える英語コミュニケーション力をのばしてきましょう。そして、高校生にもなるとたくさんの言葉を吸収できる年齢となります。心の成長と共に英語コミュニケーションの語彙力ののび英会話力を育てていきましょう。大学、短大ともなると、自分の将来に向けますます自らの選択により、英語をブラッシュアップしていく時期です。楽しく学んだ小学校の頃の気持ちを持ち続けて行って欲しいと望みます。

社会人となり、職業として、また、つながり作りに英語がますます道具として必要になってくる方もいるでしょう。外国の方々と国際理解がこれからますます大切になる時に、英語嫌いがその足かせになりませんように。

小学校英語活動を、次々へバトンタッチをつづけて多文化をしっかりと認めあう国際日本人が育ちゆく英語活動でありますようお願いしている。